

**FM バックキャスト研修**  
**気仙沼市立病院**

**7期 Cグループ**

### 【授業前の知識】

Cグループは、医学系研究科、薬学研究科、生命科学研究科、教育学研究科に所属するメンバーで構成されていた。地域医療という言葉は全員が知っている状態であったが、気仙沼市のような高齢化の進行が著しい地域の医療については、その現状を十分に理解できていなかった。

### 【授業の目的】

高齢化が進行する現代日本において、医療の課題は医療者だけで解決できるものではなく、社会全体で取り組むべき重要なテーマである。本授業では、特に人口減少と高齢化が深刻な気仙沼市を対象に、地域医療の現状と課題を多様なバックグラウンドを持つメンバーとともに探り、協働して解決策を考案することを目標とし、これからの医療の在り方を多角的に捉えることを目的とする。

### 【到達目標】

本授業を通じて、地域医療の課題を多角的に理解し、実際の事例をもとに解決策を考える力を養う。また、多様な背景を持つ他者と協働しながら意見をまとめる経験を通じて、医療の未来について主体的に考え、自らの考えを発信できる力を身につけることを目指す。

### 【授業内容】

**1日目**：気仙沼市の高齢化と医療体制の現状を学んだ。急性期だけでなく、回復期や在宅支援まで一体的に担う必要性が語られた。総合診療科の設置や地域包括ケア病棟の重要性が強調され、院内設備の見学も行った。

**2日目**：病院の役割や働き方改革、医療現場の人手不足の現状を学んだ。薬剤部、内視鏡室、リハビリ室などを見学し、現場の忙しさや麻酔の個人差による対応の難しさを感じた。WOCや感染対策の取り組みでは、医療安全とチーム連携の実際に触れた。

**3日目**：震災遺構として残る伝承館を訪れ、防災意識と地域への理解が深まった。本吉医院では訪問診療に同行し、在宅医療が地域医療の一端を担っている現場を実際に見学した。

**4日目**：講義では、食道がん手術やERASといった外科医療の知見を得た。透析室では精密な水処理工程を学び、直腸切除手術では術野の厳しさと医療者の体力的負担を体感。治療の複雑さと患者の身体的負担の大きさを間近で確認した。

**5日目**：成果報告会では、メンバーそれぞれの視点でとらえた地域医療の課題とその解決策の提案を行った。

### 【研究や仕事などに活かせる点】

高齢化が進む地域での医療提供の実態に触れたことで、都市部でも今後直面する課題を学ぶことができた。限られた医療資源の中で、患者一人ひとりに対応しようとする現場の工夫や葛藤を目の当たりにし、現場に根ざした課題発見の視点を得た。医療現場では優先順位が低くされがちなニーズや不便さにこそ、研究者として取り組むべき課題が潜んでいると感じた。

### 【影響を受けたこと】

今回の授業を通じて、地域医療の現場で実際に起きている課題や、その背景にある社会構造の複雑さを深く理解することができた。特に、多職種が連携しながら地域の医療を支えている姿や、患者一人ひとりに寄り添う現場の努力に感銘を受けた。これまで漠然としていた「地域医療」のイメージが具体的かつ多面的になり、今後の研究や仕事において、社会のニーズに応える視点や実践的な問題解決力をより意識していきたい。

### 【来年度以降の改善点】

地域医療をより深く理解するために、市民病院のような中枢となる医療機関だけでなく、開業医や薬局、介護施設なども見学できるとよかった。各医療機関がどのように連携しているのか、講義だけではイメージしづらい部分もあった。

### 【授業の限界】

講義や見学を通じて、気仙沼市の地域医療の現状を学ぶことができたが、患者と医療従事者のやりとり、地域内の医療従事者同士の連携、さらに医療従事者と行政との連携といった、人と人とのつながりを直接感じる機会は限られていた。そのため、地域全体で医療がどのように支えられているのか、関係者間の信頼関係や協働の具体的なあり方については、なお深掘りの余地があると感じた。制度や構造の理解に加えて、実際のコミュニケーションやネットワークの実態も見てみたい。

### 【まとめ】

本授業を通じて、地域医療の現場が抱える課題や工夫の実際に触れることで、これまで抽象的だった「地域医療」の姿を具体的に理解することができた。限られた医療資源の中で多職種が連携し、患者に寄り添おうとする姿勢から、医療は制度や技術だけでなく「人」によって支えられていることを強く実感した。一方で、現場の人間関係や連携の実態など、見学だけでは捉えきれなかった側面もあり、今後さらに踏み込んで学ぶ必要性を感じた。本授業で得た知見や視点を、今後の研究や将来の仕事に活かしていきたい。